

# 矢作川・豊川CNプロジェクトシンポジウム パネルディスカッション

## ■ テーマ 「流域一体でのカーボンニュートラルへの挑戦～愛知から全国へ～」

コーディネーター パネリスト



名古屋大学  
准教授  
中村 晋一郎 氏



【有識者】  
愛知工業大学  
教授  
雪田 和人 氏



【民間企業】  
(株)リバー・ヴィレッジ  
代表取締役  
村川 友美 氏



【流域市】  
豊田市  
副市長  
辻 邦恵 氏



【国】  
国土交通省  
水資源計画課長 兼  
内閣官房水循環政策本部  
事務局 参事官  
田中 敬也 氏



(まとめ) これからの流域一体でのCNの取組への期待、今後の横展開、全国への拡大について

### ①これまでの先進的な取組の積極的な発信

- 先進的な取組の課題と改善方法・効果を明確化し、積極的に発信・PRしていくことが必要である。
- 取組の効果については、データに基づいて数値的に示すことが重要である。

### ②取組の積上げと取組の幅を広げる

- できる取組から一つ一つを実践し、モデル的な知見を蓄積していくことで、規制緩和や横展開に繋がる。
- 様々な立場の人が関わられるよう、市民目線の小さな取組も積み上げていくことで、取組に広がりが見られる。

### ③矢作川・豊川CNプロジェクトの今後の取組の方向性や将来像をとりまとめて発信

- 矢作川・豊川流域で行っていく取組を、流域みんなで共有できる指針としてとりまとめて発信することが必要であり、これにより他地域にも広がっていくことが期待される。
- カーボンニュートラルは一つの目的ではあるが、その先にある流域や地域へのメリット（持続可能な社会構造への変革や健全な水循環など）を示し、そこに繋げていくことが必要である。